

令和5年度

学校自己評価表(報告)

学校運営計画

<b>学校運営方針</b>		1 生徒の自己実現と人間的な成長の支援 ・職員同士、生徒と教師、教師と保護者、学校と地域間などで良好な信頼関係をつくる。更に、説明責任を果たし、社会に開かれた学校づくりを一層推進する。 ・各組織が目標に対するコミットメント(結果責任)を果たし、更に学校を発展させる。 2 学校ランドデザインに示す「育てたい生徒像」の資質を備えた生徒の育成 ・進路目標を実現する学力と社会に貢献する幅広い教養を着実に身につけ、部活動などの生徒会活動を通じて充実した高校生活を送り、国際的な視野をもつ生徒を育成する。 ・校歌の一節「世は我が起つを待てるなり」の気概で、何事にも諦めず最後まで努力することができる、心身ともに健康で社会性のある生徒を育成する。 3 教育効果が最大となるよう、本校を支援する組織などとの連携 ・PTA、同窓会等の地域の人的リソースを活用し本校を支援する体制を充実させ、教育効果が最大限上げられる学校を目指す。			
<b>昨年度の成果と課題</b>	<b>年度の重点目標</b>	<b>具体的目標</b>			
<成果> 国公立大学合格者数はのべ73名(前年+21名)となり、大学等進学者は174名(前年+23名)で、達成率88.3%となった。国公立大学合格者の割合は37.1%となった。継続的及び組織的な指導がより進路希望の達成につながると思われる。 部活動では、文武ともに顕著な成績を残した。 SSHの指定はⅢ期5年目となり計画通り実施して一定の成果をおさめたが、Ⅳ期の採択には至らず令和5年度は経過措置となった。  <課題> ○今後とも教職員が、部活動と学習のあり方について、共通意識を持ち、生徒の指導を実践していく。 ○家庭や地域と十分な連携をとり、問題行動や不登校等を未然に防止する。 ○多くの中学生から進学先として本校を選んでもらうため、部活動やSSH等の柏崎高校の良い点を地域に積極的にアピールするとともに、地域の中高と連携し学力の向上を図ることに努める。 ○HP、学年だより等を活用して情報発信を積極的に行い、開かれた学校づくりを持続させる。 ○実施するSSH事業について、HPを活用して成果を積極的に発信する。	各教科での校内研修を強化し、1人1人の指導力のさらなる向上を目指す。  基礎学力の充実を図るとともに、生徒の希望する進路実現に向け学力レベルを一層引き上げる。	・ICTを活用した個別最適な学びの場を普通の授業で展開する。 ・教員間の公開授業(互見授業)を行い、指導力の向上を図る。  ・週末課題を課すなど、家庭学習への取組をさらに強化し、基礎学力の定着を図る。家庭学習時間の確保を目指す。  ・各学年毎に平日放課後や長期休業中における組織的補習体制を検討し、実施する。 ・生徒の進路目標をより明確にしていくため、各学年に応じた効果的な進路学習・意識啓発活動を一層充実させる。 ・生徒の実態に即した丁寧な進路指導を行う。面談時間を十分に確保する。 ・授業満足度や高校生活満足度を一層高める。 ・国公立大学進学希望者の現役合格80名を目指すとともに、難関大学合格者5名以上を目標とする。			
	規範意識を含め基本的な生活習慣を確立させ、学習と部活動の両立はもちろん文武一貫を図り、心身ともに健全な生徒の育成に努める。	・部活動と学習の両立のため、職員の考え方の統一を図り、担任、顧問間の連携を密にして継続的指導を行う。 ・遅刻防止、服装等の指導を教職員の共通意識のもと、全職員で継続的に行い、基本的な生活習慣の確立を図り、問題行動ゼロを目指す。 ・いじめを起こさない取組を、計画的・継続的に行う。 ・不登校生徒等への組織的対応を学習し、強化する。			
	本校の魅力ある学校づくりを地域の方々に積極的にPRすることによって、地域から信頼される学校づくりを行うとともに、生徒募集に力を注いでいく。	・本校の魅力を伝える・・・直接地元の中学校に行きよさをアピールするとともに、中学教員や生徒、保護者に授業を参観する機会を作る。 ・一般選抜の倍率が1.10倍を超える。 ・ホームページの充実を図り、魅力をわかりやすく発信する。 ・学校案内・体験入学・高校説明会を一層充実させる。			
	スーパーサイエンスハイスクール事業を計画通り円滑に実施していく。	・大学等校外機関との連携体制を更に発展させる。 ・SSH指定校や韓国の高校との交流を積極的に進めていく。 ・各種コンテストへの挑戦を働きかける。			
	働き方改革を更に推進し、各人がワークライフバランスの確立に努める。	・「県立学校における教員の勤務時間の上限に係る方針」を遵守する。 ・学年・分掌内の業務分担の平準化を図る。 ・ICTを活用し、業務の効率化を図る。			
<b>重点目標</b>	<b>具体的目標</b>	<b>具体的方策</b>		<b>評価(ABCD)</b>	
各教科での校内研修を強化し、1人1人の指導力のさらなる向上を目指す。	・ICTを活用した個別最適な学びの場を普通の授業で展開する。  ・教員間の公開授業(互見授業)を行い、指導力の向上を図る。	【教務部】ICTを授業等に活用するための環境整備を行う。	B	A	B
		【国語科】ICT活用に関して科内で共有し、副教材や電子辞書を交えて効果的に活用できるよう授業内容の工夫・改善を行う。	A		
		【数学科】ICT活用に関する指導法について科内で共有を図る。	A		
		【地歴・公民科】授業の問題点および教科内の問題点を整理・把握するため、定期的に教科会議を開く。	A		
		【地歴・公民科】生徒個々の進路実現を図るため、科目に適するICTの活用法など科内で共有を図り、授業内容の工夫・改善を行う。	A		
		【地歴・公民科】生徒の進路希望状況や授業中の様子など、日ごろから情報の共有を図る。	A		
		【芸術科】鑑賞や作品制作の場面において、学び合いと相互理解の学習を取り入れる。	A		
		【英語科】各自が自己の課題を発見し、生徒の英語力強化のために、英作文等の学習ツールを活用する。	A		
		【理科】実施することが困難な実験・実習等についてICTを活用する。	B		
		【家庭科】調べ学習や発表の場面で活用し、情報収集、課題成果の生徒間の共有を図る。	A		
基礎学力の充実を図るとともに、生徒の希望する進路実現に向け学力レベルを一層引き上げる。	・週末課題を課すなど、家庭学習への取組をさらに強化し、基礎学力の定着を図る。家庭学習時間の確保を目指す。	【数学科】各学年の担当者間で連絡をとりあい、3年間を見通した指導計画を考え、指導方法の改善を図る。	B	A	A
		【国語科】各学年、科目単位の担当者間で生徒の状況や学習進度について情報交換し、随時自己評価や授業互見を行うなど、生徒の学習が効果的に進むよう指導力の向上を図る。	A		
		【理科】随時指導状況を自己評価するとともに、公開授業等を行いながら科内で評価の共有をはかり、生徒の学力の把握に努め、到達状況に応じた授業の実施に努める。	B		
		【英語科】教科担当者間での連携を密にし、個々の研修内容を共有したり、学期ごとの互見授業とその相互評価をしたりして授業改善を図る。	B		
基礎学力の充実を図るとともに、生徒の希望する進路実現に向け学力レベルを一層引き上げる。	・週末課題を課すなど、家庭学習への取組をさらに強化し、基礎学力の定着を図る。家庭学習時間の確保を目指す。	【進路指導部】学年・教科と連携し、「1週間で21時間」の家庭学習に取り組めるよう指導する。「家庭学習時間調査」を適宜実施し、生徒の実態を把握するとともに担任の面談指導等に活用する。	A	A	A
		【1学年】家庭学習実態調査の結果をふまえ、家庭学習の定着を促す。	B		
		【2学年】「1週間で21時間」の家庭学習定着のために適宜実態調査、個人面談を実施する。	A		
		【3学年】生徒自身が計画的に取り組み、気づきや意識向上につながるよう促す。	A		
		【国語科】定期考査、模擬試験の結果を指導内容や指導方法に反映させる。	A		
【数学科】1,2年生は小テストなどを行い、生徒の実態を確認しながら指導内容や指導方法を考え、基礎・基本の定着を図る。3年生はそれぞれの進路希望に合わせて課題の内容を精査し、意欲的に学ぶ生徒を育てる。	A				

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価(ABCD)		
基礎学力の充実を図るとともに、生徒の希望する進路実現に向け学力レベルを一層引き上げる。	・週末課題を課すなど、家庭学習への取組をさらに強化し、基礎学力の定着を図る。家庭学習時間の確保を目指す。	【理科】知識・技能を重視した課題を計画的に示す。この課題について単元テスト等を含めて実態を把握し、必要に応じて個別対応しながら基礎学力の定着を図る。	A	A	
		【英語科】音読・読解・単語学習等さまざまな課題を計画的に示し、授業内テストやパフォーマンス課題を効果的に実施し、成果を測ることで、その定着を図る。	A		
	・各学年毎に平日放課後や長期休業中における組織的補習体制を検討し、実施する。	【進路指導部】学年及び教科間の調整を図り、3年生の土曜講座も含めた組織的な計画を立案する。 【1学年】長期休業中に補習を実施し、基礎力の定着を図る。 【2学年】放課後補習、土曜講座、夏季補習への積極的な参加を促す。長期期間中に希望者を対象とした補習を実施し、よりハイレベルな進路先に挑戦しようとする意欲の喚起と学力の向上を促す。 【3学年】各種補習、講座への積極的な参加を促す。 【数学科】各学年、放課後や長期休業中に補習を行う。 【理科】3年生については、希望者を対象に計画的な進学に向けた補習を行うとともに、模擬試験の結果を分析し、計画の調整を行う。また、1・2年については進学に向けた補習実施について検討する。 【英語科】3年間を見通した段階的・発展的な補習を行い、生徒の進路実現に寄与する。	【進路指導部】学年及び教科間の調整を図り、3年生の土曜講座も含めた組織的な計画を立案する。	A	A
			【1学年】長期休業中に補習を実施し、基礎力の定着を図る。	A	
			【2学年】放課後補習、土曜講座、夏季補習への積極的な参加を促す。長期期間中に希望者を対象とした補習を実施し、よりハイレベルな進路先に挑戦しようとする意欲の喚起と学力の向上を促す。	A	
			【3学年】各種補習、講座への積極的な参加を促す。	A	
			【数学科】各学年、放課後や長期休業中に補習を行う。	A	
			【理科】3年生については、希望者を対象に計画的な進学に向けた補習を行うとともに、模擬試験の結果を分析し、計画の調整を行う。また、1・2年については進学に向けた補習実施について検討する。	A	
	・生徒の進路目標をより明確にしていくため、各学年に応じた効果的な進路学習・意識啓発活動を一層充実させる。	【進路指導部】1年生では、自分の適性や能力の発見・把握に努めさせ、特に文理選択に向けて大学の系統と職種等の関係が理解できるよう適切に進路ガイダンスを実施する。2年生では、大学の系統から学部・学科へと理解を深めさせ、実際の受験を意識できるようオープンキャンパス、学部学科研究、進路ガイダンスを通して、志望校の具体化を促す。3年生では、受験勉強を通して自らの課題を見つけ、解決に向けて努力する中で、人間性を磨き、高い志を持って最後まで粘り強く取り組むことの意義を見出させる。 【1学年】進路講演会や進路研究を通じて、進路情報を吸収し、自己の適性も踏まえ進路意識の形成を図る。 【2学年】進路講演会や進路研究を通じて、進路情報を収集し、自己の適性も踏まえ進路意識の形成を図る。学部学科研究や大学講義体験などを通じて、興味、関心のある分野に関する知識を増やし、考えを深めることで進路目標をより明確化させる。 【3学年】受験を自己成長の機会と捉え、自己実現と進路実現を結び付けた受験校選択を意識させる。	【進路指導部】1年生では、自分の適性や能力の発見・把握に努めさせ、特に文理選択に向けて大学の系統と職種等の関係が理解できるよう適切に進路ガイダンスを実施する。2年生では、大学の系統から学部・学科へと理解を深めさせ、実際の受験を意識できるようオープンキャンパス、学部学科研究、進路ガイダンスを通して、志望校の具体化を促す。3年生では、受験勉強を通して自らの課題を見つけ、解決に向けて努力する中で、人間性を磨き、高い志を持って最後まで粘り強く取り組むことの意義を見出させる。	A	A
			【1学年】進路講演会や進路研究を通じて、進路情報を吸収し、自己の適性も踏まえ進路意識の形成を図る。	A	
			【2学年】進路講演会や進路研究を通じて、進路情報を収集し、自己の適性も踏まえ進路意識の形成を図る。学部学科研究や大学講義体験などを通じて、興味、関心のある分野に関する知識を増やし、考えを深めることで進路目標をより明確化させる。	A	
			【3学年】受験を自己成長の機会と捉え、自己実現と進路実現を結び付けた受験校選択を意識させる。	A	
・生徒の実態に即した丁寧な進路指導を行う。面談時間を十分に確保する。	【1学年】学期毎に1回以上個人面談を行い、生徒の様子を把握する。長期休業中に保護者面談を実施し、連携を図る。 【2学年】ささいな訴えや変化にも対応できるように、こまめに面談を実施し、家庭とも連絡を密にする。 【3学年】三者面談や進路講演会等を設け、情報の共有を図り、指導に生かす。	【1学年】学期毎に1回以上個人面談を行い、生徒の様子を把握する。長期休業中に保護者面談を実施し、連携を図る。	B	A	
		【2学年】ささいな訴えや変化にも対応できるように、こまめに面談を実施し、家庭とも連絡を密にする。	A		
		【3学年】三者面談や進路講演会等を設け、情報の共有を図り、指導に生かす。	A		
・授業満足度や高校生活満足度を一層高める。	【教務部】定期考査や各種学校行事などを含めた年間計画や月間行事予定にもとづいて、日々の教育活動が円滑に遂行できるよう、教務的な視点で学校全体を積極的にリードする。 【教務部】生徒が読書に興味を持つように働きかけをしていく。 【1学年】月1回の学年会を通じて、各教科との連携を図り、生徒の実態を把握する。 【2学年】定期的に学年会を開催し、学年所属の職員と情報共有をして生徒の実態を把握する。 【3学年】学年便り等で意識志向に向けて動機づけを行い、学校生活、各行事の様子や成果を保護者にも伝える。	【教務部】定期考査や各種学校行事などを含めた年間計画や月間行事予定にもとづいて、日々の教育活動が円滑に遂行できるよう、教務的な視点で学校全体を積極的にリードする。	A	A	
		【教務部】生徒が読書に興味を持つように働きかけをしていく。	A		
		【1学年】月1回の学年会を通じて、各教科との連携を図り、生徒の実態を把握する。	B		
		【2学年】定期的に学年会を開催し、学年所属の職員と情報共有をして生徒の実態を把握する。	A		
・国公立大学進学希望者の現役合格80名を目指すとともに、難関大学合格者5名以上を目標とする。	【進路指導部】進路ガイダンスや進路講演会を定期的実施し、受験期を自らの力で乗り切れる忍耐力や精神力を高める指導を行う。共通テストでは、900点満点型での受験に粘り強く取り組むよう指導する。また、模擬試験を効果的に配置し、難関大志望者へは大学別模試の積極的な受験を勧める。 【3学年】各自の志望動機をはっきりと定め、計画的に準備をし、最後まで粘り強く受験するよう指導する。	【進路指導部】進路ガイダンスや進路講演会を定期的実施し、受験期を自らの力で乗り切れる忍耐力や精神力を高める指導を行う。共通テストでは、900点満点型での受験に粘り強く取り組むよう指導する。また、模擬試験を効果的に配置し、難関大志望者へは大学別模試の積極的な受験を勧める。	A	A	
		【3学年】各自の志望動機をはっきりと定め、計画的に準備をし、最後まで粘り強く受験するよう指導する。	A		
規範意識を含め基本的な生活習慣を確立させ、学習と部活動の両立はもちろん文武一貫を図り、心身ともに健全な生徒の育成に努める。	・部活動と学習の両立のため、職員の考え方の統一を図り、担任、顧問間の連携を密にして継続的指導を行う。	【親友会指導係】生徒一人一人が「右文尚武」を体現するために、部活動への積極的な参加を促し、全校で8割以上の加入率を目指す。	A	A	
		【親友会係】親友会執行部との連絡を密にし、生徒会活動の活性化を促し、生徒が円滑かつ主体的に生徒会活動を展開できるようにする。	A		
		【1学年】面談を通じて学習と課外活動のバランスを生徒に提案するとともに、家庭や部活顧問との連携を図る。	B		
		【2学年】生徒や保護者との面談内容を部活動顧問とも共有する。	A		
		【3学年】学習と部活動との両立や部活動引退後の学習へのスムーズな移行を促す。	A		
	・遅刻防止、服装等の指導を教職員の共通意識のもと、全職員で継続的に行い、基本的な生活習慣の確立を図り、問題行動ゼロを目指す。	【生徒指導部】「8:20着席」を徹底し、スムーズに朝学習に取り組めるよう、学年団を通じて指導していく。 【生徒指導部】「服装自由化宣言」の趣旨を集会等を通じて理解させ、学習活動にふさわしい節度ある身だしなみを心がけるよう指導する。 【生徒指導部】自転車及び自動車による送迎のマナー違反ゼロ、盗難ゼロを目指す。また、貴重品の管理等の指導を徹底する。 【生徒指導部】各種テストで不正行為が発生しないよう、担任やテスト監督による指導をその都度促す。 【生徒指導部】問題行動を起こした生徒に対し、丁寧な聞き取りやアフターケアを組織的、継続的に行う。 【生徒指導部】必要に応じ、校舎内外の見回り等を行う。 【1学年】挨拶や清掃などを徹底させ、公共心を育てることを目指す。 【2学年】指示を受ける前に行動できるなど、自発的で規範意識の高い行動を促す。 【3学年】周囲への気配りや感謝の気持ちを忘れず、自立した行動ができることを目指す。	【生徒指導部】「8:20着席」を徹底し、スムーズに朝学習に取り組めるよう、学年団を通じて指導していく。	B	A
			【生徒指導部】「服装自由化宣言」の趣旨を集会等を通じて理解させ、学習活動にふさわしい節度ある身だしなみを心がけるよう指導する。	A	
			【生徒指導部】自転車及び自動車による送迎のマナー違反ゼロ、盗難ゼロを目指す。また、貴重品の管理等の指導を徹底する。	B	
			【生徒指導部】各種テストで不正行為が発生しないよう、担任やテスト監督による指導をその都度促す。	A	
			【生徒指導部】問題行動を起こした生徒に対し、丁寧な聞き取りやアフターケアを組織的、継続的に行う。	A	
			【生徒指導部】必要に応じ、校舎内外の見回り等を行う。	A	
			【1学年】挨拶や清掃などを徹底させ、公共心を育てることを目指す。	A	
			【2学年】指示を受ける前に行動できるなど、自発的で規範意識の高い行動を促す。	A	
			【3学年】周囲への気配りや感謝の気持ちを忘れず、自立した行動ができることを目指す。	A	
			・いじめを起こさない取組を、計画的・継続的に行う。	【生徒指導部】普段からいじめ・からかいを許さない環境をつくる。 【生徒指導部】講習会等を通じ、携帯電話・スマートフォンの利用マナーの遵守、ネットトラブル等の防止を徹底する。 【生徒指導部】いじめ防止対策推進委員会と連携しながら、丁寧にかつ継続的に面談をし、再発を防ぐ。 【特別支援教育推進委員会】「SOSの出し方に関する授業」や職員対象の「ゲートキーパー研修」を行い、生徒が悩みを相談しやすい環境を整える。 【特別支援教育推進委員会】週に1回、特別支援委員会を開催し、適切に情報共有を行う。	
【生徒指導部】講習会等を通じ、携帯電話・スマートフォンの利用マナーの遵守、ネットトラブル等の防止を徹底する。	A				
【生徒指導部】いじめ防止対策推進委員会と連携しながら、丁寧にかつ継続的に面談をし、再発を防ぐ。	B				
【特別支援教育推進委員会】「SOSの出し方に関する授業」や職員対象の「ゲートキーパー研修」を行い、生徒が悩みを相談しやすい環境を整える。	A				
【特別支援教育推進委員会】週に1回、特別支援委員会を開催し、適切に情報共有を行う。	A				

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価(ABCD)		
規範意識を含め基本的な生活習慣を確立させ、学習と部活動の両立はもちろん文武一貫を図り、心身ともに健全な生徒の育成に努める。	・不登校生徒等への組織的対応を学習し、強化する。 ・保健環境の整備を行い、生徒にきめ細やかな対応を行う。	【生徒指導部】生徒指導に関する職員向け研修を年3回開催し、多様な生徒への適切な対応を学習する。	A	A	A
		【生徒指導部】特別支援委員会、いじめ防止対策推進委員会と連携しながら情報を共有するようし、悩みを抱えている生徒に対して丁寧に対応していく。	A		
		【保健部】校内美化の意識向上を目指し、日常清掃を確実に実施し、保健部及び清掃監督を中心に用具の点検を定期的実施する。	A		
		【保健部】校内救急体制を整え、迅速でかつ適切な対応を行うための共通理解を図ると共に生徒の自己管理能力を高める。	A		
		【保健部】不登校対策として、校内全体での組織的な対応を図ると共に、入学時の早い段階から専門家による保健講話を実施したり、スクールカウンセラーとの連携を密にしたりしながら、心の健康維持に努める。	A		
本校の魅力ある学校づくりを地域の方々に積極的にPRすることに努める。	・中学校を訪問して本校の魅力を伝え、教員や生徒、保護者に授業を参観する機会を作る。 ・一般選抜の倍率が1.10倍を超える。 ・ホームページの充実を図り、魅力をわかりやすく発信する。	【教務部】『学校案内』の内容をより充実させ、本校の教育活動の様子や特徴などをわかりやすく伝える。	A	B	B
		【渉外部】PTA総会への保護者参加の拡充に取り組み、学校と家庭との協力体制を強固なものにする。	A		
		【教務部】記事の内容を充実させ、更新の頻度をあげ新鮮な情報を掲載する。	B		
		【親友会係】学校行事や部活動等の生徒の活動の様子を発信することで、ホームページの充実を図る。	B		
	・学校案内・体験入学・高校説明会を一層充実させる。	【教務部】『学校案内』の内容をより充実させ、本校の教育活動の様子や特徴などをわかりやすく伝える。	A	A	
		【教務部】オープンスクールの内容をより充実させ、本校が志望校になるように中学生にPRする。	A		
スーパーサイエンスハイスクール事業を計画通り円滑に実施していく。	・大学等校外機関との連携体制を更に発展させる。	【SSH運営委員会】昨年度の経験を生かしつつ、今年度の事業が円滑に進むよう、企画運営につとめる。	A	A	A
		【SSH運営委員会】SSH事業の中心となり、全校体制で組織的に活動できるよう、企画運営につとめる。	A		
	・SSH指定校や韓国の高校との交流を積極的に進めていく。 ・各種コンテストへの挑戦を働きかける。	【SSH運営委員会】昨年度の経験を生かしつつ、今年度の事業が円滑に進むよう、企画運営につとめる。	A	A	
		【SSH運営委員会】SSH事業の中心となり、全校体制で組織的に活動できるよう、企画運営につとめる。	A		
		【2学年】日韓交流事業や様々な大会へ積極的に参加するよう促す。	A		
働き方改革を更に推進し、各人がワークライフバランスの確立に努める。	・「県立学校における教員の勤務時間の上限に係る方針」を遵守する。	【教務部】定時退庁日と閉庁日を、管理職と相談して適切に設定する。	B	B	B
		【安全衛生委員会】出退校簿における「月の時間外勤務時間」の多い職員数を共有し、勤務時間の遵守を進める。	A		
	・学年・分掌内の業務分担の平準化を図る。	【教務部】適宜業務内容や分担の見直しを行う。	A	A	
		【生徒指導部】行事により仕事量に偏りが出ないように、仕事の分担を平準化する。	A		
		【1学年】適宜業務内容や分担の見直しを行う。	B		
		【2学年】適宜業務内容や分担の見直しを行う。	A		
		【3学年】適宜業務内容や分担の見直しを行う。	A		
・ICTを活用し、業務の効率化を図る。	【教務部】自動採点システムを導入し採点業務を効率化する。	A	A		
	【教務部】Googleクラスルームによる情報の発信や、各種アンケートにGoogleフォーム等を活用して、アンケートの集計にかかる時間の短縮につなげる。	A			
成果	概ね、柏崎高校全体として、組織として課題の解決に向けて取り組めた。卒業後の進路の結果については、年々向上していることより一定の成果が現れている。一方で生徒、保護者のアンケートに、「チャイムと同時に授業始まらない。」と回答があるように、職員1人1人の意識と取組が必要な部分もあることが判明した。また、令和6年度高校入試の倍率がわずかに1.0倍に届かなかったことについて、学校ホームページだけでなく、noteを積極的に活用することで、中学生とその保護者にもアピール	総合評価			
		B			